

私たちが、終日、 ほぼ異年齢保育にしている理由

※()内の人数は、総園児数の概算です。

異年齢の関わり、 育ちを保障したい

■0～5歳の異年齢(茨城県 私立保育園主任保育士 約120名)

月並みですが、年上の子は下の子の面倒を見たり、お手本になることで年上である自覚も高まり、成長につながります。また、年下の子は上の子に甘えることができたり、憧れの気持ちを待つことで意欲が高まり、成長を促すと思います。

現代ではきょうだいがいなかったり、地域関係の希薄化で、異年齢間の関わり

りが減っている一方で、異年齢の子がともに生活する保育園で関わりを持つことは、貴重な機会です。そもそも同年齢だけで形成される社会なんてあり得ないので。

■3～5歳の異年齢(福井県 私立認定こども園園長 約100名)

(私たちを含む)モンテッソーリ教育の園では、通常、縦割り保育を行っています。

縦割り保育は、年齢別保育では得られないたくさん学びがあります。3歳児、見て学ぶ、4歳児、実際にやっ



て学ぶ、5歳児、教えて学ぶ、の3回の学びの機会があります。

子ども主体の保育にしたなら 自然と

■1～2歳と3～5歳の異年齢(愛知県 公立保育園園長 約100名)

子ども主体の保育に変えたら、自然に異年齢保育になりました。子ども

の興味から遊びの環境を設定していくと、年齢に関係なく遊びが広がったので。

■0～5歳の異年齢(神奈川県 私立保育園園長 約100名)

どこで誰と何をしてもいい保育へと変えたことで、自然に異年齢に変わっていききました。園も生活の場であり、大きな家族と思えばそれが自然です。

同年齢では息苦しさを感ずる子たちが、それぞれの居心地の良さを選べたことで平和な空気が流れていると思います。

たとえば、年長児クラスで、指示をしたり、強い態度に出て、他児と関係がうまくいかない5歳女児がいました。それが0歳児クラスでしばらく過ごすことよって、気持ちがほぐれ、表情も柔らかくなりました。ほかの子たちも0歳児クラスで、その5歳女児と関

わり、関係性が修復していったのです。

また、1歳男児で月齢が高く、個性もあり、室内にいられない子がいました。それが、幼児クラスの遊びにはまったり、幼児たちと散歩に行くなどで、その子が望む場を選べることで、無理強いせず、過ごせています。

また、全職員が全園児のことを把握している良さも感じています。

人手の課題解消の ためもある

■0～5歳の異年齢(大阪府 私立認定こども園保育教諭 約80名)

日中、幼児クラスの異年齢保育は、子どもたちの縦のつながりを大切にするため。一方で、異年齢にしたほうが対人数的に保育者の数を減らせるからと聞いたこともあります。実際、早朝と夕方の延長保育は、人手不足のため一つの部屋にまとめています。

■3～5歳の異年齢(埼玉県 私立保

育園保育士 約100名)

まず一つには、「一人担任の限界」。うちの園は配置が国基準のため、幼児クラスは一人担任でしたが、子どもも保護者も変化し、一人で20人以上を見るのが負担になってきていました。

そこで約70人の3～5歳児を四十数名と二十数名の2クラスにして、大人数と少人数、どちらのクラスに向いているかで子どもをクラス分け。加配の先生も含めて、2クラスとも複数担任の保育体制にしました。

ただ、子どもにとっても、異年齢保育はメリットがとてつもなく多いと思っています。年中・年長になってくると、感謝されたり、役に立つ自分がいれしくて、保育士のしていることを自然にまねしてくれたりします。

複数担任のおかげで、いろいろなフォロワーにも入れるようになり、年長児の負担になる場面があるようには感じていません。